

---

# 三田苦労す!!

明日は明日の風が吹く

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三田苦労す！！

### 【著者名】

NO855U

### 【あらすじ】

「夢はお金持ちになること…」

大きな夢を胸に、一人の男、「三田」<sup>みた</sup>は只今、就職活動中。数々の会社の面接で採用されなかつた三田にチャンスが… そんな三田の次の仕事は「サンタさん」！？ 果たして、三田は「サンタさん」になれるのか？ そして、大きな夢をかなえられるのか？

## 第0章・1話・プロローグの時（前書き）

12月24日、夜。

リンリンリン、リンリンリン……

全世界の良い子は、毎年この人を楽しみにしている。

はるか上の空を、鈴の音と共にやつてくる、そう、あのを人を…

サンタクロース。

通称『サンタさん』を…

## 第0章・1話・プロローグの時

（×××年12月24日）

「ジングルベール、ジングルベール、鈴が鳴る～」

街は、ずっとこの音楽がかかつていて。

なんてつたつて今日は、1年に1度の『サンタが来る日』だ。  
(×××年から、12月24日は、『サンタが来る日』と名づけられた。)

街の良い子は、早く寝ていて、親も8時には一緒に寝ていた。  
毎年この日だけは、9時になると、ほとんど人の姿がみえなかつた。  
そんな、人のいない街を、一人の男が歩いてる。

「ハア～。今日は『サンタが来る日』か…。大人になつた俺には、  
サンタは来ないだろうな…」

そう独り言を言いながら、男は家へと帰つていつた。

（次の日の朝）

あの男が田を覚まし、ポストを見ると、何かが入つていてる。

「サンタからのプレゼントかな～」

と、苦笑いしながら、見てみると、チラシが入つており  
『サンタ募集中！！』  
と書かれていた。

つづく…

## 第0章・1話・プロローグの時（後書き）

いつも、初めまして「明日は明日の風が吹く」です  
実は、文章を書くのも、考えるのも、とても苦手です（汗）  
そんな私ですが、ある友人が小説を書いているのを見て、  
「自分もがんばってみようかな」

と思い、書き始めました。

誤字がたくさんあると思いますが、許してください。  
(アドバイスがあれば、どんどん教えてください!)  
それでは、また、「第1章・1」で、お会いしましょう!  
つづく...

## 第1章・1話・迎え来る時（前書き）

（登場人物の窓（N.O.・1））

どうも、この物語の主人公「三田」<sup>みた</sup>です。23歳です。  
昨年度、大学を卒業し、今は、仕事探しをしています。（彼女募集  
中！）

夢は「お金持ちになること」です。夢に向かって、全力でがんばっ  
ています！

（でも、弱気な性格です…）

こんな俺ですが、よろしくお願ひします。

N.O.・2につづく…

とある街の会社に、一人の男が、面接に来ていた。

「お名前は？」

「二田です」

.....

一では、最後にあなたの夢を教えてください!」

三田は、その言葉を待っていたか

「お、お仕事忙ひやうにならへども。」

と、力強く答えた。が、面接官はあきれた顔をして、

「あなたはなぜ、この会社を選んだんで

「もちろん、給料がいいからですー！」

その瞬間、面接官が固まつた……

後日、面接の結果が知られたが、もちろん、採用されなかつた。三田はこんな感じで、1年も経たない間に、23社の面接を受け、すべて採用されなかつた。

そんな三田にも、1-2月25日にはサンタさんからのプレゼント(?)が来ていた。

そのプレゼントは、一枚のチラシである。そこには、

♪サンタ募集中！！♪

3日後に迎えに来ます。

それまでに、どうあるのが、考えておいてください。

これはボランティアではありません。『仕事』です！

と書いてあった。三田は考えた。・・・  
(サンタは仕事なのか……とこいつはせ、「アレ」があるのか?・・・)

それから三田は真剣に「三分」考えた。

3日後

～××11年12月28日～

「ペンポーン」……

チャイムが鳴った。ついに、迎えが来た。三田は玄関に行き、恐る恐るドアを開けてみる。すると、30cmくらいのぬいぐるみが置いてあつた。いたずらかと思つた瞬間、ぬいぐるみは三田を見て、「三田さんですか?」

と、聞いてきた。

(これはトナカイのぬいぐるみじゃないのか……ま、まさか本物!?)

「わ、私が三田です」

「なんや、あんたが三田か。初めまして、あんたを迎えて来た「トナカイ」や。」

(か、関西弁!?) いや、問題はそこではない。こいつが俺を迎えて来たのか……こんなやつが?)

「誰が来るかと思つたら、こんな小さこガキか……」

がつかりしながら、三田は独り言を言った。すると突然銃が発砲したかのように、

「だれがガキやー」シカコアソタヨツ年上やぞーー。眞葉遣いに  
氣いつけろーーー。」

「は、はー。すみません。や、眞葉をつけまーす」

三田は「勢い + 関西弁」の最強口音ビートやられ、弱くなつてしまつた（元から弱いが…）

300円の関西弁トナカイへ ぬけと強眞葉から眞葉に弱眞葉になる  
三田  
となつてしまつた。

「まあ、許したるわ。それよりのビ渴いた。お茶くれ。」  
そう言いながら、家に入り、リビングに向かつていった。  
(なんで、勝手に人の家に入るんだよつー。)  
と、思いながらもお茶を沸かす、三田。

「はー、お茶です」

「おー、あんがと。…………味はまあまあやな。47点ー。」

「で、アンタ、サンタなるんか?  
「その」となんですが……」

少し間があつた。

「や、やつぱり俺、サンタになれます……」

つづく…

## 第1章・1話・迎え来る時（後書き）

「こんにちは、「明日は明日の風が吹く」です  
友人にアドバイスを受け、文章を長くすることにしました。（今までかなり短かつたんです…）ないネタ絞つてがんばるので、よろしくお願いします。

第1章・1話どうでしたか？関西弁+身長30cmの「トナカイ」と弱気な主人公「三田」。

意外な二人はこれからどうなつていいくのでしょうか？

そして、三田はサンタさんへの就職をあきらめますのでしょうか？

第1章・2話もよろしくお願いします。  
つづく…

## 第1章・2話・ソリ発射の時（前書き）

（登場人物の窓（N.O.・2））

どいつも、三田を迎えて来た、トナカイの「スノウ」や！

性別：オス 体高：34.3cm 体重：2.6kg（体格指数：

2.2）方言：ちょい関西弁

最近はジョギング（一足歩行）も始めた、健康的な37歳！！

まあ、この鍛えた体で、三田を立派なサンタにするのが、わしの夢や（なれるかどうかは、わからんけど…）

そーゆーことで、よろしく！！

N.O.・3につづく…

## 第1章・2話・ソリ発射の時

「や、やつぱり俺、サンタにはなれません…」

三田の考えた結果だつた。

数秒すると、スノウ（トナカイ）は口を開いた。

（「ひなつたら、アレを言つしかないか）

「報酬出るんやで！」

それを聞くと三田は驚いた顔をして、

「やつぱり出るんですか！…」

「ちなみに、どのくらい？」

すかさず三田は、大事なことを聞いた。

「それは、アンタ次第や。アンタ次第で、なんぼでも稼げるで。どうや、サンタにならへんか？」

意外な言葉が返ってきた、と感じる前に

「はい、なります！…」

と言つた。あまりの速さにスノウは慌てた。

（えつ、思ったより素直やなあ…まあ、ええわ）

「よ、よじ、じゃあ行くから、準備しどき」

そういつつと、スノウはまた、お茶を飲みだした。

10分後

「準備できました。」

「おう、そつか、じゃあそろそろ」

と言つて、スノウは立ち上がり、外へ出た。三田もそれに続き、外に出た。すると、約2mのソリがあり、前には「機械」、後ろには

「エンジン」のようなものがあつた。スノウはそのソリの上に乗つた。その後た三田も乗つた。

「力チヤ力チヤ力チヤ力チヤ、力チヤ力チヤ力チヤ力チヤ……」

スノウは前にある機械のボタンをいろいろ触っていた。そして、最後に

「モクテキチ、サンタランジ（畠的地、サンタランジ）」  
と言ふ終ると、機会から「ロープ」が出てきた。

「いいか、そのロープ握つとけ。絶対離すなよ！」

また機会から声が聞こえ始めた。

〔ボーナス〕（発射前）

後ろのエンジンが点いた。その瞬間、ソリは、信じられない速さで飛んでいった。

הנִּזְבָּן

[דבָּרִים]

「バ、バイ（は、はい）」

•  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
•

(スノウ)  
(三田)

— — — — —

— — — — —

卷之三

ソリはゆづくつと降りていった。

「たゞ、おまえの言つておいた、アーヴィングの本のことを、

一人は同時にソリから降りると、すぐに座り込んだ。あまりの速さに三田とスノウは疲れていたが、なぜか笑顔だった。

「さあ、どうぞお入りください。」

二二二

二人は立ち上がった。

... ۷۰۰

## 第1章・2話・ソリ発射の時（後書き）

いつも、「明日は明日の風が吹く」です  
(あまり書ませんでしたが、「スノウ」は『一足歩行』です！)

3回目になつても、ネタは湧きません…  
でも、がんばるので、アドバイスなど応援よろしくお願ひします。  
さあ、ついに物語が始まります…！  
3話もよろしくお願ひします。

つづく…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0855u/>

---

三田苦勞す!!

2011年10月9日06時14分発行